

【資料】

“給”に関する研究文献目録（1956～2004年） （附：近年における“給”の文法化に関する研究動向）

山 田 忠 司

“給”研究论著目録（1956～2004年）

YAMADA, Tadashi

要旨：中国語“給”はその用法の多彩さゆえに研究者の注目を集めてきた。

本稿は“給”に関する論考の文献目録である。近年はその文法化に注目した論考が目につくので、附記として、最近の“給”の文法化に関する研究動向と若干の卑見を述べた。本来であれば拙論に付すべきものであるが、諸般の事情によって、取りあえず目録を先行させる次第である。

キーワード：給、文法化、使役、授与、受動

中国語“給”については太田 1956 において、初めて語学的に取り上げられて以来、数多くの論考がものされてきた。本目録は、“給”研究の動向を知るための論文一覧である。脱稿以前に確認できたものについては 2005 年発表された論考も含めた。

“給”に関する研究文献目録

太田 辰夫 1956 「給」について 神戸外大論叢 第7巻第1～3号

《语法论集》第二集（中华书局出版）1957年に中国語訳再録

胡 竹 安 1960 动词后的“给”的词性和双宾语问题 中国语文 5月号

向 若 1960 关于“给”的词性 中国语文 2月号

- 杨 欣 安 1960 说“给” 中国语文 2 月号
- 池田 武雄 1962 「〈給〉(gei) の発生について」 中国語学第 122 号
- 加賀美嘉富 1964 「中国語“給”に関する一考察」
中央大学文学部紀要 32 号
- Yuen Ren Chao 1968 *A Grammar of Spoken Chinese* pp.330
University of California
- 上野 恵司 1969 “給”について 中国語学第 188 号
- 長尾 光之 1969 「与」と「給」の問題点 集刊東洋学 21 号
- 望月八十吉 1970 「給」について 人文研究 21-4 号
- 太田 辰夫 1974 『離婚』の語法と語彙 神戸外大論叢 25 卷 1 号
- 荒川 清秀 1979 “走 zou” と “给 gei” の意味・用法について
愛知大学研究室報 No.3
- 朱 德 熙 1979 与动词“给”动词相关的句法问题 方言第 2 期
- 菊田 正信 1980 受け身の表現をめぐって 人文学第報 140 号
- 相原 茂 1980 “给 g ě i”について 雑誌『中国語』8 月号
- 施 关 滄 1981 “给”的词性及与此相关的某些语法现象 语文研究第 2 辑
- 朱 德 熙 1982 《语法讲义》 商务印书馆 (p,179~181)
- 陈 炯 1983 双宾语句和“给” 语文学学习 10 月号
- 催 承 一 1983 “给”字和它的宾语 延边大学学报第 2 期
- 朱 德 熙 1983 包含动词“给”的复杂句式 中国语文第 3 期
- 祝 顺 有 1983 说“给” 华中师院学报第 4 期
- 龚 千 炎 1983 由“V 给”引起的兼语句及其变化 中国语文第 4 期
- 俞 敏 1983 北京口语里的“给”字 语文学学习 10 月号
- 内藤 正子 1984 “給+V”構文に関する一考察 中国語学 231 号
- 邢 福 义 1984 关于“给给” 中国语文第 5 期
- 泉 敏弘 1984 “给”字的致使、被动用法研究 中国語学第 231 号
- 泉 敏弘 1985 北方「給」使役・被動用法の来源 中国語学第 232 号
- 泉 敏弘 1986 蘭州方言「給」字句考 中国語学第 233 号

“給”に関する研究文献目録（1956～2004年）

- 范 晓 1987 介词短语“给 N”的语法意义 汉语学习第 4 期
- 桥本万太郎 1987 汉语被动式的历史・区域发展 中国语文第 1 期
- 今井 敬子 1988 『红楼梦』に見られる‘給’の使役的用法
信州大学 教養部紀要第 22 号
- Hashimoto, Mantaro 1988 The structure and typology of the Chinese passive construction *Passive and Voice*
John Benjamins (p.329-354)
- PAUL Waltraud 1988 THE PURPOSIVE GEI-CLAUSE IN CHINESE
Cahiers de Linguistique Asie Orientale Vol. XXVII N°1
- 小川 郁夫 1989 中国語の「動詞＋“給”」について
下関市立大学論集 32 号
- 杨 凯 荣 1989 中国語と日本語における使役表現に関する対照研究
くろしお出版
- 张 惠 英 1989 说“给”和“吃” 中国语文第 5 期
- 佐々木勲人 1990 “給”構文の多義性について
日本語と中国語の対照研究 13 号
- 李 炜 1990 口语中的“N 给 V 了”《语言文字论集》广东人民出版社
- 讚井唯充・徐 揚 1990 中国語受動文における
“被・叫・讓・給”の互換性 人文学報 213 号
- 梁 玉 璋 1990 福州話の“給”字 中国语文第 4 期
- 徐 丹 1990 关于给予式的历史发展 中国语文第 3 期
- 徐 丹 1992 北京話中的语法标记词“给” 方言第 1 期
- 赵 金 铭 1992 “我唱给你听”及相关句式 中国语文第 1 期
- 丁 崇 明 1992 大理方言中与动词“给”相关的句式 中国语文第 1 期
- 周 国 光 1993 动词“给”的配价功能及其相关句式发展状况的考察
南京师大报第 1 期
- 佐々木勲人 1993 受身と受動—“給”構文の分析—
日本語と中国語の対照研究 15 号

- 盧 涛 1993 「給」の機能語化について 中国語学 240 号
- John Newman 1993 A COGNITIVE GRAMMAR APPROACH TO MANDARIN
GEI JCL21-2
- 張 威 1993 中国語再帰動詞及びその特殊性—“給”+再帰動詞”を
めぐって— 中京大学教養論叢第 34 巻第 2 号
- 佐々木勲人 1994 中国語の受益文 筑波大学現代文化論集 38 号
- Xu Dan 1994 THE STATUS OF MAKER *GEI* IN MANDARIN CHINESE
JCL22-2
- 加納 光・平井勝利 1994 現代中国語の所謂使役表現に用いられる
“让”及び“給”の使い分け 四日市大学論集第 7 巻
- 李 晓 琪 1994 介词“给、为、替”—兼论对外汉语虚词教学
《语法研究与语法应用》北京语言学院出版社
- 楊 凱 榮 1994 受益表現について—“給”と『てあげる、てくれる』
との比較を中心に 九州国際大学教養研究第 1 号
- 浦山あゆみ 1994 《醒世姻縁伝》の「己」と「給」
人文論叢（大阪市立大学大学院文学研究科）第 23 巻
- 朱 景 松 1995 介词“给”可以引进受事成分 中国语文第一期
- 周 国 光 1995 动词“给”的词汇意义和语法意义的发展
安徽师范大学学报（哲社版）第 1 期
- 齐 沪 扬 1995 有关介词“给”的支配成份的省略的问题
上海师范大学学报第 4 期
- 佐々木勲人 1996 “被……给”と“把……给”—強調“给”の再考
中国語学 243 号
- Masayoshi Shibatani 1996 Applicatives and Benefactives: A Cognitive Account
Grammatical constructions Oxford University Press
- 袁 明 军 1997 与“给”字句相关的句法语义问题
语言研究论丛第 7（南开大学中文系）
- 田島英一・陸 明 1997 初等中国語教育における前置詞“给”の分類

慶應義塾大学語学視聴覚教育研究室 紀要 30

- 朱 斌 1998 給 O-nO-V 山东师大学报（社会科学版）1期
- 田中 智子 1998 現代中国語の“給”について
東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻
（言語学専門分野）提出修士論文（未公刊）
- 今井 俊彦 1998 介詞“給”の用法について 語学漫步第31号
- 晋 家 泉 1998 簡論“給”字句兼语句 滨州师专学报3期
- 曾根 博隆 1998 簡析“給”和“与”的动词用法 明治学院論叢第606号
- 張 勤 1999 「給」の素描 中京大学教養論叢第39卷3号
- 沈 家 煊 1999 “在”字句和“給”字句 中国語文第2期
- 山田 忠司 1999 《儒林外史》における“給”の用法 中国語学246号
- 佐々木勲人 1999 南方方言におけるGIVEの処置文 中国語学246号
- 平山 久雄 2000 「給」の来源—「過与」説に寄せて— 中国語学第247号
- 木村 英樹 2000 “給”が使えない「ために」 中国語10月号
- 江 藍 生 2000 汉语使役与被动兼用探源
《近代汉语探源》商务印书馆（p.221～236）1997年10月24日
アジア・アフリカ言語文化研究所における発表レジュメに同じ
- 杉村 博文 2000 “給”の意味と用法 中国語3月号
- 周 长 银 2000 現代汉语“給”字句の生成句法研究 当代语言学第3期
- 程 艷 春 2000 中国語の“让”と“給”の交換条件に関する一考察
日本エドワード・サピア協会研究年報第14号
- 関 光世 2001 “V給”文の意味特徴に関する考察 中国語学第248号
- 王 顔 杰 2001 “把……給V”句式助词“給”的使用条件和表达功能
语言教学与研究第2期
- 黄 瓚 辉 2001 介词“給”“为”“替”用法补遗
暨南大学文学院学报第1期
- 蒋 绍 愚 2002 “給”字句、“教”字句表被动的来源 语言学论丛第26辑
《语法化与语法研究（一）》2003年 商务印书馆に再録

- 李 炜 2002 清中叶以来使役“给”的历时考察分析
中山大学学报第 3 期
- 李 炜 2002 从《红楼梦》《儿女英雄传》看“给”对“与”的取代
兰州大学学报;社科版第 4 期
- 林 立 梅 2002 中国語“X 给 YV (N)”の構文の意味
言語情報科学研究第 7 号
- 张 谊 生 2002 助词“给”的性质、限制和功用
《助词与相关格式》安徽教育出版社
- 赵 世 举 2003 授与动词“给”产生与发展简论 语言研究第 4 期
- 陈 敏 2003 “给”字句的语用变化 浙江传媒学院学报第 1 期
- 李 炜 2004 加强处置/被动语势的助词“给”语言教学与研究第 1 期
- 李 炜 2004 清中叶以来北京话的被动“给”及其相关问题
中山大学学报(社会科学版)第 3 期
- 木村 英樹 2004 「授与から受動への文法化」 月刊『言語』4月号
- 石 毓 智 2004 兼表被动和处置的“给”的语法化 世界汉语教学 3 期
- 石 毓 智 2004 给予动词演化成被动标记的机制
《汉语研究的类型学视野》汉语研究的类型学 江西教育出版社
- 王 健 2004 “给”字句表处置的来源 语文研究第 4 期
- 蒋 瑾 媛 2004 “V+给”中“给”的词性及相关句法结构第 3 期
四川教育学院学报
- 李 珂 2004 从“AVP 给 R”格式看动词语义特性对“给”字语法化的影响
汉语学习第 3 期
- 刘 永 耕 2005 动词“给”语法化过程的义素传承及相关问题
中国语文第 2 期

近年における“給”の文法化に関する研究動向

“给”は「与える」という意味の動詞の他、使役マーカー(=“让”)、受動マーカー(=“被”)、前置詞(=为、向)、助詞として用いられる(『現代

汉语八百詞』)。その他にやや方言的色彩を帯びるものの処置式マーカ－(＝“把”)としての用法も報告されている。このような多彩な使われ方をするがゆえに個々の用法を見ても種々興味深い点がある。例えば使役マーカ－として

1) 给他多休息几天 / 让他多休息几天 (彼を数日多く休ませる)

は問題ないが、

2) *给她先回家! / 让他先回家! (彼女を先に帰らせてやろう)

における“給”の使用は不適格である。

これについては1)は「休暇」を授与するのに対し、2)では何も授与するものが無いという説明が、一応は可能であろう。しかしながら、前置詞に目を転じて、

3) 给老师行礼 / 向老师行礼 (先生にお辞儀をする)

4) *车走远了, 她还在给我们招手 / 车走远了, 她还在向我们招手

(車は遠くなったが、彼女はまだ私たちに手を振っている)

を比較して、何故3)が成立し、4)が非文であるかについては別の理由を用意しなければならない。これについては稿を改め、論じる予定である。

ここでは特に“給”の文法化に焦点を当て、その問題を論じた諸論文を概観する。

蒋 绍 愚 2002 “给”字句、“教”字句表被动的来源『语言学论丛』第26辑

蒋 2002 は“給”が受動マーカ－としての機能を持つに到ったのは授与動詞“給”がまず使役マーカ－に文法化し、更にそれが受動マーカ－にまで文法化したと主張している。同様の指摘は Hashimoto 1988、徐丹 1992、江藍生 1999 においてもなされている。

木村英樹 2004 「授与から受動への文法化」月刊『言語』4月号

木村 2004 は蒋 2002 とは異なった見解を示している。木村 2004 は北京語

においては“給”が純然たる許容使役として用いられていないことを根拠に「授与→許容使役→受動」という拡張は考えにくいとする。ここでの使役は使役全般ではなく、「許容使役」である点は重要である。木村の主張は、受動への文法化を導くことができるのは使役の中でも「許容使役」であり、他の使役（強制使役）ではないのであり、北京語が「強制使役」は有するものの「許容使役」を持たないことは、論理的根拠を欠くと断じている。ここで問題となるのは果たして北京語に「許容使役」の“給”が存在するの否かという点である。木村 2004 では「純然たる許容」使役は存在しないとされているが、この「純然たる」の意味するところは明確には述べられていない。この言葉からは「純然ではない許容」使役の存在を示唆するものと解釈できるが、例が挙げられておらず、その違いが不分明である。

「授与→使役→受動」説に代わって、木村 2004 が着目するのは“給”の持つ受益者マーカーとしての機能である。受益者は行為誘発者でもあり、それは受動文における動作者の状況誘発者と共に誘発者であるという接点を持つ。その接点を契機として受益者マーカーの“給”が受動者マーカーへと拡張したと主張している。

石 毓 智 2004b「兼表被动和处置的“给”的语法化」『世界汉语教学』3 期

これはこの問題に対する最新の論考である。上記蔣 2002、木村 2004 の何れとも異なった解釈を試みている点で注目される。本論文は“給”が被動、処置式の両方に兼用される理由を以下のように説明している。

“給”は周知の通り、(S) + “給” + NP1 動作主 + NP2 受動者として二つの目的語がとれる。さらに文末に VP を付加した

5) (S) + “給” + NP1 動作主 + NP2 受動者 + VP

の形式を取れる。

6) 我给你一件东西瞧瞧 (红楼梦 109 回)

この形式において NP2 (一件东西) が省略 (あるいは前置) されたものが、

受動となり、NP1（你）が省略（あるいは前置）されたものが処置式となるというのである。これは被動と処置式を同時に解釈しようと言う点で魅力的である。

北京語に「許容使役」の“給”が存在するの否かという点については石毓智 2004a「给与动词演化成被动标记的机制」『汉语研究的类型学视野』江西教育出版社に参考になる記述がある。石毓智 2004a は使役を①「致使、使得」、②「支使、吩咐某人做某事」、③「允许、许可」に三分類し、通常“給”が使役として使いうるのは「允许、许可」のみであり、「致使、使得」と「支使、吩咐某人做某事」には制限が多いとしている。これは木村 2004 の主張とは相容れないものである。

筆者（山田）は中国語の使役は許容、強制という概念では捉えがたく、山田 1999 においてこの問題を検討した際に、提唱した「授与使役」、「非授与使役」という用語が有用だと考えている。すなわち“給”が使役マーカ―として使用可能か否かはその強制、許容といった条件で決まるのではなく、使役の前提として「物の授与」があるかどうか、その条件となる。つまり

7) 你给我看看刘文光的信。

の如き例はそのプロトタイプと呼ぶべきものである。これはまず、手紙の授与があり、その後「見る」という行為が為されるのである。下記のような物の移動を伴わない使役文では、“給”は不適當で“叫”が適格となるのである。

8) 主任叫我三天内把事情办妥。／*主任给我三天内把事情办妥。

追記：

本稿脱稿後、大阪外国語大学古川裕教授より「中国普通話文法と方言文法の多様性と普遍性に関する類型論的・認知言語学的研究」を御恵投いただいた。その中に東京大学木村英樹教授「北京語授与動詞“給”の文法化」と題する論考が含まれている。上に取り上げた木村 2004 をより詳しく論じたものであるが、本稿ではそれについて論じる余裕がなかった。